

生き心地の良い社会へ



参院自民党「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」について語り合った世耕弘成参院幹事長(中央)と上月良祐議員(左)、太田房江議員(中央左)、本田顕子議員(中央右)、司会の三宅伸吾党新聞出版局長(右) ※座談会は記念撮影時を除き、マスクを着用するなど感染対策を徹底して行いました

現場に向き合う、参院「不安勉強会」

参院自民党の「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」。一昨年からこれまでに提言を3度とりまとめ、政策にしっかりと反映させるなど精力的に活動中だ。医療過疎などの現状を東北に探るほか、ネット調査や全自治体からのヒアリングも実施。国民の不安を広範囲に探り、現実的な解決策を探る勉強会について、座長の世耕弘成参院幹事長と3氏にその狙いなどを聞いた。

〈司会は三宅伸吾・党新聞出版局長〉

『党の基盤、揺らぐ』危機感から

司会 令和元年7月の厳しいことでした。有権者らしい参院選が終わって間も、「自民党は地方を見てなく、世耕幹事長から「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」の提案がありました。このままでは、どのような思い入れがあったのですか。

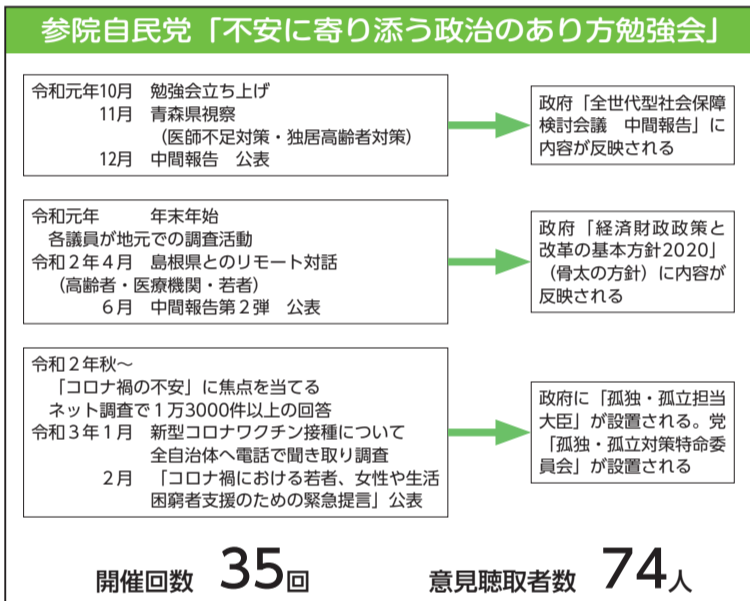
NPOに学ぶ

単なる政策の勉強会ではありません。われわれが地方の皆さまにきちんと向き合う「政治運動」です。多くの学識経験者だけでなく、現場でさまざまな不安に寄り添い、日々活動されているNPOの方々のお話を傾け、われわれに

政策に具体化、継続的に

次に、一昨年の年末から昨年の年始にかけ、党の参院議員に地元をしっかりと歩いていただきました。地方だけではなく都市部の若

司会 これまでの活動の



勉強会の座長を務める世耕弘成参院幹事長

不安に寄り添う参院自民党

司会 大きな一石を投じた勉強会ですが、活動はまだ道半ばです。世耕 これがきっかけとなって参院自民党に「現場に向き合う」という精神が浸透しました。ワクチン接種についても大変なスピード感で、議員が手分けを

世耕 感染予防のため、慎重な行動が求められていますが、「現場に出る」とはとても大切です。状況を把握しながら、現地視察も復活、充実させます。「不安に寄り添う」と言えば、参院自民党となるよう、活動をさらに深化させていきます。不安を感じている方々にしっかりと向き合うことが、今は不安を感じない方々にもさらには安心をお届けできるのではないのでしょうか。



「現場に向き合う」が勉強会のモットー。世耕弘成参院幹事長(左から2人目)は視察活動の復活、充実にも意欲を見せる(写真は令和元年11月、青森県五所川原市七和地区活性化協議会視察の様)

出会いの場、保障を

本田顕子参院議員 初当選した直後に勉強会が始まりました。政治家は国民の皆さまに希望を持っていただくことが仕事です。そのため、まず皆さまの不安の中身を理解することが大切だと学びました。例えば、子どもの学校が休校になり仕事を休まざるを得なくなった保護者が受け取れる給付金があります。これには事業者の申請が必要ですが、企業が申請しないため、もろえないケースが相次いでいます。そこで、個人の申請で受け取れるよう、厚生労働省に運用を見直してもらいました。これも勉強会の成果です。

女性の問題についてはエンターギャップの議論が今、注目されています。この問題も女性の不安に寄り添うという意味で、引き続き勉強会などでも検討していくべきです。また、学生の方の声を聴くと、まさに孤独・孤立を感じています。「出会いの場を保障してほしい」という若者の切実な声を受け止める政策を届けていきたいです。

保護者への給付金、運用見直し

提言するだけでなく、政策に具体化していく。これが大切です。現場に思いを持って、現場の方から見た太田房江議員はどのよう

司会 党女性局長をされた太田房江議員はどのよう

司会 本田顕子議員は勉